

令和元年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)	評価
(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	① チームティーチングの事前や事後の打合せで指導のねらいや評価等の共通理解を行い、効果的な指導となるようにする。	チームティーチングの効果的な手法(5項目:別途提示)を4項目以上取り組んでいると答えた職員の割合 A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満  <5項目> ・個別の目標の共通理解 ・支援内容の共通理解 ・評価の共通理解 ・共通理解に注意した授業 ・授業改善	各教員の達成度の割合 ① 5項目実施 ② 4項目実施 ③ 3項目実施 ④ 2項目実施 ⑤ 1項目実施 (単位%) ① ② ③ ④ ⑤ ①+② 小 42.9 42.9 14.3 0 0 85.8 中 50.0 40.0 10.0 0 0 90.0 高 42.9 38.1 14.3 4.8 0 81.0 分 100.0 0 0 0 0 100.0 全体 86.0  【達成基準】A以上 【結果】A	前期同様チームティーチングを実施するうえで必要な5項目のうち取り組んでいる数についてアンケートを行った。「4項目以上実施」がどの学部も80%を達成し全体で86%とA評価となった。項目別の実施状況をみると「支援内容の共通理解を行っている」「共通理解に注意した授業を行っている」については、100%の実施率であった。前回半数程度の実施にとどまっていた「事前に評価の仕方について共通理解を図っているか」については実施率60%と、前回より改善した。しかし、他の項目に比べるとまだ実施率は低いいため今後も重点的に取り組む必要がある。	A 達成
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	回答数、満足度の割合 ・学校公開 授業への満足度(4項目) 96% ・授業参観 授業への満足度(4項目) 95%  【達成基準】A以上 【結果】A	「指導内容はわかりやすいか」「教員の児童生徒へのかかわり方が適切であるか」「使用教材の工夫がみられるか」「落ち着いて学習できる環境であるか」の4項目についてA B C Dの評価でアンケートを行った。前期同様学校公開、授業参観とも「満足している」が90%を超え、A評価となった。アンケートでいただいた感想や意見を、今後も授業改善にいかしていく。	
学校関係者評価委員会の評価		チームティーチングの効果的な手法としての5項目のうち、評価に関する項目は実施率が前回より改善したとはいえ、60%と他に比べて低い。評価の仕方の共通理解については、意識の弱さを感じる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		授業では目標や指導支援については検討することが多いが、評価の仕方については十分とは言えないため、評価方法や内容について更に検討が必要である。評価に関しては今年度から学校研究に取り上げており、次年度も継続して授業改善に繋ぎたい。  保護者の方や関係機関の方から、アンケートや懇談等でいただいた感想や意見を反映するようにし、授業内容や指導方法、支援の在り方についても話し合いを重ね、指導支援を充実させていきたい。			

令和元年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No. 2)

(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを活用し、児童生徒一人一人の具体的な実践を行う。	キャリア発達面の個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合 A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	達成度の割合(単位%) 小 100 中 82.4 高 93.5 全体 91.8  【達成基準】 B以上 【結果】 A	「錦城版キャリア教育プログラム」を教員が意識し活用するために設けたものである。前期に引き続き、児童生徒一人一人のキャリア発達を育成する具体的な実践を行い、個別のねらいに対して向上が見られたかどうかで達成度を判断した。 小、中、高等部ともにAとなり達成基準を満たしている。今後、児童生徒一人一人のキャリア発達を見据え、より一層児童生徒一人一人に応じた具体的な実践を続けていく。	A 達成																											
		キャリア教育の具体的な取り組み内容に満足している保護者の割合 A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	達成度の割合(単位%) 小 91.7 中 93.3 高 100 全体 96.4  【達成基準】 B以上 【結果】 A	保護者に対して「キャリア教育の具体的な取り組み内容に満足しているか」についてアンケートを取ったものである。小学部は91.7%、中学部は93.3%、高等部は100%と満足度が非常に高く、結果は、Aとなり達成基準を満たした。 保護者にとっては子どもの「キャリア発達」が1年間を通しておおいに感じられ、教員のねらいも的確な成長に結び付くものであったと言える。	A 達成																											
	② 様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	あいさつの仕方に向上が見られた児童生徒の割合 A : 90%以上 B : 80%以上 C : 70%以上 D : 70%未満	達成度の割合(単位%) 小 100.0 中 81.3 高 80.6 全体 87.3  【達成基準】 B以上 【結果】 B	あいさつチェックシートを用いて、6月と2月を比較し、個人の向上度合いを確認し評価した。全体での達成度は80%を超えBとなった。児童生徒会役員を中心とする毎月のあいさつ運動に各部の児童生徒が積極的に参加するなど活気にあふれた。また、校外活動においても率先してあいさつをする姿が見られた。 児童生徒の能力に応じたあいさつをする力は社会に出る際に必要とされるものである。今後もさらなる活性化を目指す取り組みを進め、向上したとする割合を増やしたい。	B 達成																											
③ 進路の手引きを活用しキャリア教育や進路支援の充実を図る。	キャリア教育や進路情報等について、チェックシートによる一定の達成度の職員の割合、 A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満  <チェック項目> ①手引きを参考に進路についての保護者からの質問に答えられる ②福祉サービス事業所のサービス内	達成度の割合(単位%) 【達成基準】 B以上 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>63.6</td> <td>72.7</td> <td>68.1</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>100</td> <td>90.9</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>77.3</td> <td>95.5</td> <td>86.4</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>80</td> <td>100</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>76.5</td> <td>86.3</td> <td>81.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> 【達成基準】 B以上 【結果】 A		①	②	平均	小	63.6	72.7	68.1	中	100	90.9	95.4	高	77.3	95.5	86.4	分	80	100	90	全体	76.5	86.3	81.4		B	A	A	チェックシートで、二つのチェック項目をあげた。一つ目は引き続き「進路の手引き」を基に保護者からの進路についての質問に答えられるかを確認した。中・高等部では、達成基準を満たしているが、小学部では、わずかに達成基準に満たなかった。理由としては、出口が遠く感じられ、目の前の課題解決に意識が向き、「具体的な卒業後の子どもの姿」になかなか繋がらないのではないかが挙げられる。 二つ目の「卒業後の福祉サービス内容に対してそれぞれ違いがわかるか」では、小・中・高等部ともにB以上となり、達成基準を満たしている。	A 達成
	①	②	平均																													
小	63.6	72.7	68.1																													
中	100	90.9	95.4																													
高	77.3	95.5	86.4																													
分	80	100	90																													
全体	76.5	86.3	81.4																													
	B	A	A																													

		容の違いがわかる		教員一人一人が児童生徒のキャリア発達に必要な情報を得ながら道しるべである「進路の手引き」を前回よりもさらに熟知し支援しているからであると言える。 全体を通しての結果は、Aであり達成基準を満たしている。
学校関係者評価委員会の評価	進路に関しては小学部の教員にも理解してもらえば、より適性を見極めて指導できるであろう。進路研修会で卒業後の進路先での様子を動画等で紹介したことは、小・中学部の教員の意識を高めるよい取り組みであり工夫して続けてほしい。小学部の保護者から進路に関する質問があればチェックしたり保護者と一緒に調べたりすると良い。いろいろな事業所があるため、制度的なことよりも小学部の教員が就労施設を訪問する等するのも良い。就労先での仕事の様子などから、今の児童生徒にできることを気づいてほしい。中高の教員はできれば生徒と一緒に見学をするとよい。教員と保護者が共通理解して取り組むことが大切である。特に年齢の低い時期は保護者と教員の両方の視点から、可能性や本人の好きなことをたくさん見つけていくことが大切である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	錦城版キャリア教育プログラムを活用して、保護者の方々とともに互いの意識を高めながら、更に児童生徒に適切な内容を選定しながら行っていく。今後も教員の意識を高め、保護者や関係機関と連携を取りながら実践を行い、教員の施設見学等も含めて検討し実践していきたい。			

### 令和元年度 自己評価最終評価結果

					石川県立錦城特別支援学校 (No.3)																																																
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果		分析(成果と課題)	評価																																															
(3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。	① マニュアルやヒヤリハットをはじめ、日常の安全管理に留意した行動をとり、事故防止や健康管理を行う。	<p>具体的な行動例(自由記述1項目を含む7項目)に照らして</p> <p>「A十分に実践している」6項目以上</p> <p>「B実践している」5項目以上</p> <p>「C実践している」3・4項目</p> <p>&lt;7項目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、廊下等のゴミに気付く等、些細なことに心を配る。</li> <li>・教員の目が届いていない場面がないか気を配る。</li> <li>・教室の整理を行い不要物はない。</li> <li>・担当している児童生徒の緊急マニュアルを確認する。</li> <li>・避難訓練前にマニュアル等を確認する。</li> <li>・授業等でのヒヤッとしたことを他の教員と共通理解する。</li> <li>・上記以外で各自の実践を1つ自由記述</li> </ul>	<p>各教員の達成度の割合(単位:人数, %)</p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>A</td> <td>A+B</td> </tr> <tr> <td>小</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>38.5</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>50.0</td> <td>91.7</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>68.2</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>6</td> <td>25</td> <td>19</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>59.6</td> <td>96.2</td> </tr> </table> <p>【達成基準】 A50%以上、A+Bの割合100%</p> <p>【結果】 A59.6%、A+B96.2%</p>	項目	7	6	5	4	3	A	A+B	小	0	5	8	0	0	38.5	100	中	0	6	5	1	0	50.0	91.7	高	3	12	6	1	0	68.2	95.5	分訪	3	2	0	0	0	100	100	全体	6	25	19	2	0	59.6	96.2	<p>Aの割合が59.6%と高く、A+Bの割合も100%には達成していないが、96.2%と高い割合を示している。しかし、Aの割合が小で低い。また、高と中で僅かにC評価もある。項目別に分析すると「教室の整理整頓を行い不要物がない」「担当している児童生徒の緊急マニュアルを確認する」の2項目において10名以上の教員が実施していなかった。なお、後者については担当児童生徒に緊急マニュアルがないため記述しなかったとも考えられる。中間評価での課題が十分解決されておらず、該当する教員の意識改革が急務であり、今後も教室の整理整頓や、危機管理マニュアルを十分に活用し、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して指導支援を行うよう取り組んでいく。</p>	未達成
項目	7	6	5	4	3	A	A+B																																														
小	0	5	8	0	0	38.5	100																																														
中	0	6	5	1	0	50.0	91.7																																														
高	3	12	6	1	0	68.2	95.5																																														
分訪	3	2	0	0	0	100	100																																														
全体	6	25	19	2	0	59.6	96.2																																														

	<p>② 児童生徒の様子等を職員間で共通理解を図り、小さなトラブルを見逃さずに対応していじめの未然防止に努める。</p>	<p>見逃さず対応している教員の割合  A：とてもあてはまる  B：あてはまる  C：あまりあてはまらない  D：あてはまらない</p>	<p>各教員の達成度の割合  (単位：人数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>A</th> <th>A+B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>53.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>33.3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>45.5</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>60</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>24</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>46.2</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成基準】  A50%かつA+Bの割合100%  【結果】  A46.2%、A+B100%</p>		A	B	C	D	A	A+B	小	7	6	0	0	53.8	100	中	4	8	0	0	33.3	100	高	10	12	0	0	45.5	100	分	3	2	0	0	60	100	全体	24	28	0	0	46.2	100	<p>A+Bの割合が100%に達している。学期毎に職員に対して「いじめ兆候チェックシート」でアンケート調査を行い、各学部会で児童生徒の不適切行動の実態を共有している。また、いじめ問題対策委員会では、小さなことでも気になるところをチェックし職員間で共有することで、いじめにつながらないように取り組んでいる。  しかし、Aの割合が50%に達していないので、今後はAの割合が50%以上になるように、児童生徒の様子をしっかりと見守るように意識を高めて取り組んでいく。</p>	<p>未達成</p>
	A	B	C	D	A	A+B																																									
小	7	6	0	0	53.8	100																																									
中	4	8	0	0	33.3	100																																									
高	10	12	0	0	45.5	100																																									
分	3	2	0	0	60	100																																									
全体	24	28	0	0	46.2	100																																									
<p>(4) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意義を理解して取り組みを進める。</p>	<p>① 諸会議等に関して、業務の効率化を図るため工夫を行う。</p>	<p>具体的な行動例(自由記述の1項目を含む5項目)に照らして、  「A十分に実践している」5項目  「B実践している」4項目</p> <p>&lt;5項目&gt;  ①会議資料は2日前までに配付する。  ②配布資料に目を通して会議に臨む。  ③提案や説明の際に「何分程度」等決めて臨む。  ④会議時間を短くするよう意識している。  ⑤上記以外で各自の実践を1つ自由記述</p>	<p>各教員の達成度の割合  (単位%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>0</td> <td>69.2</td> <td>23.1</td> <td>0</td> <td>(未記入1)</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>0</td> <td>66.7</td> <td>33.3</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>9.1</td> <td>63.6</td> <td>27.2</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>0</td> <td>100.0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>3.8</td> <td>69.2</td> <td>25.0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成基準】  A50%以上A+Bの割合100%  ※勤務時間調査結果の分析も加味して評価する。  【結果】 A3.8% A+B 73%</p>		A	B	C	D	小	0	69.2	23.1	0	(未記入1)	中	0	66.7	33.3	0		高	9.1	63.6	27.2	0		分	0	100.0	0	0		全体	3.8	69.2	25.0	0		<p>全体では、Aが3.8%、A+Bは73%で達成基準には届かなかった。学部によりA+Bが100%もあるが、Cの2～3項目実施の教員も多かった。5項目の内訳では、実践数が多いのは、②98%③88.5%④96%で、少ないのは①55.8%、⑤23.1%であった。  「資料に目を通す」「会議の時間を短くする」などの意識は高まっているが、「会議資料を2日前までに配付する」は、時間に余裕がなく難しいとの声がある。効率化を図るため、個人の状況に合わせて更に意識した取り組みが望まれる。  勤務時間の集計で時間外勤務は前年度比、4～1月全体では若干減少。4・5・9～11月で減少傾向、6～8、12・1月で上昇傾向であった。個人集計では特定の職員に時間外勤務が多い。業務の平準化に向けて、更に校務分掌の見直しや仕事量や重なりなどを把握し、協力体制を工夫する必要がある。</p>	<p>未達成</p>							
	A	B	C	D																																											
小	0	69.2	23.1	0	(未記入1)																																										
中	0	66.7	33.3	0																																											
高	9.1	63.6	27.2	0																																											
分	0	100.0	0	0																																											
全体	3.8	69.2	25.0	0																																											
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>学校は安全に配慮をしており対応はとれている。学校の緊急マニュアルを更に充実させ、安全・安心に対する取り組みは今後も充実させてほしい。</p> <p>働き方改革での取り組みは工夫されているが、資料の二日前配付は難しいと思う。</p>																																														
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>安心・安全に関しては100%の基準を設けて、より意識を高めて対応すべきであると考え。現在、危機管理マニュアルを見直しており、より一層の共通理解を図っていきたい。</p> <p>働き方改革において、授業準備や児童生徒にかかわる時間を確保しながら、時間外勤務を少なくするためには効率の良い校務への取り組みが必要であり、今後も工夫を重ねていく。</p>																																														